京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐべからず

發行所 京城新報社 東京支局

冥府の伊藤公へ（四）

恐々縮ヶ庵主人

◎公爵閣下日本は立憲政体なりとはいへ未だ政党の域に達せず彼の英国に比して遜色あるは自他之れを認むるところ也而して立法の機関は貴衆両院ありと雖も時に好事的に又は感情的に両院一致を缺くのみか両々立憲政体の真義を没却し輙ては醜体を世間に暴露することも少なからず、而して茲に於て下院は民衆輿論の府たり上院は一国高級の士の意志を代表する機関たると共に一般民衆の意志を消化し下院と相持つて立法の基礎を定むの府たり然るに近来に於ける上院の行動は頗る定義及精神を忘却して以て似たるものあり即ち研究会茶話会旧友会談話会等の如きは派閥的に各自の政見を交換研究し兼ねて一夕の歓を消するに止まるが如きも其の実は恰も一大党派として院内に勢力を占め時に政府の死命を制すことも少なからず時には或は歴史の[illegible]き場合に依りては其の勢力の下に下院の党派をして其の進路に疑惑せしめ以て之れが鼻息を伺はしむるに至るこれ蓋し下院党派の無気力にして腑甲斐なきに依るとはいへ亦以て之れが上院に於ける一部党派の党規に触せざるを得ず[illegible]の如き政界は貴族院[illegible]の為め慨して且つ慨せざるべからず◎閣下以て如何となす

◎閣下桂公は仮令首相の職を退くも元老として国家のために尽すべく廟堂にあるも野にあるも国家を想ふの念に於ては毫も渝る所なしとは公自身の明言したるところに係り公の心事や好し思ふに公の如き偉大なる人物が国家の元老として国事に尽瘁さるゝ事は国民の一般に欣ぶところ何人と雖も之に対して異議を唱ふるものなきは固より言ふ迄もなし唯公は閣下も知らるゝ如く名利を重んじ権勢を貴び以て官僚派の棟梁を以て任せんとするの念断々たり而して官僚派の棟梁を以て任せんとする念の熾なるは閣下と雖も敢て桂公に譲るものなきも閣下は比較的名利に淡く従つて他人に喚はずに従ら[illegible]名と利を以てせしこと極めて少なし然るに桂公は名利と権勢とを以て念とし時に恣花政略を以て他人の歓心を買はんとす所ふるところありては旨へ如斯政略は決して善良なる方法に非ず蓋し総には如何なる爵位も貴しすべからざるの念起らんのみ閣下以て如何となす

◎公爵閣下京城花柳界に於ける状況を報道せし嘖論は姑く拔きにして後廻しとなし爰に少しく候之れ蓋し冗談に非ず又常坐の興に非ず生前閣下が豪快の氣と遣り慰安の天地としての秘遊ヶ異面目に照るものに候（二十九日午後二時稿）

雜録

銃猟に就て

芳州客

狩猟期も追々近付て来たそこで狩猟の趣様を書て見よふ、就中銃猟は欧米諸国に於ては専ら行はるゝ技にして身体の健康を保持し尚武の氣象を鼓舞するには至極よいものである、朝は早くから星を戴て出で終日新鮮の大氣を吸ひつゝ山野を跋渉して獲物を覘ふかるやズトンと轟ち放ち其目的たる而も動物はもんどり打つて落ち来る間は何んとも云へぬ心神の爽快を覚ゆるものは蓋し銃猟に如くものはあるまい我国にても今日に至りては銃猟も西洋風の飛鳥走獣打も頗に勃興して自称チャンピオンを以て任ずるものも少くない全体飛禽猟打ちは一種の技術的娯楽である、夫れ人として精神の爽快身体の健康を祈らざるものはなかろふ、サスレバ運動をするが近路である、そふかといつて頭に疑るに趣味の伴なはざる運動を以てするも中々勝ることの出来ないものである、識らず知らず快楽の中に健康を養ふの方法は此れ又た恐らくは銃猟に及ぶものはあるまい、其趣味快感は弄花徹宵する人杯の到底想像だも及ばざる所であるから必ず先づ先覚者にを動めるのである、運動法の種々ある中にても一番仕安ひ趣味の伴ふ銃猟を大に勧誘する所以である、然れ共も技進者の徒らに銃猟を弄し快楽を貪らんと欲し自ら負傷し或は同胞を殺傷するものあるを見聞す、此れ多くは操銃法を知らざるの致す所なりと想はる、銃機は鋭利なるものなる程又其半面は凶機なるものなることを片時も忘れてはならぬのであるから必ず先づ先覚者に付き操銃法を知覚するが一番便利近路である、（猟友会の如き先覚者の団体に付き学ふを最良とす未だ京城には程等の団体の設置を見ざるは遺憾なり）

漢詩

◎朝鮮漫遊雜感

荒川信助

劉海桑田幾変遷　繁華回首夢魂驚
呻吟客在東明殿　何處青山統骨城
○
十二樓前楊柳新　東明遺跡江南民
怪來太守傳觴詠　只賦風光不及民
○
攬轡當年謹敢當　樹林何處武威揚
草枯遼陽安路　來訪滿州古戰場
平安南道順安驛爲小西行長敗明軍古戰場
○
禪閣跡塵赤格　乾坤龍虎鬪
當年針鐵何在　落日蒼凉玄武門
江村女子可憐生　沙頭浣濯忙不堪
行々異郷思柳陸六月麥砧聲

外事一束

▲乃木　大將莫斯科停車場にて官憲一人の出迎なし市民は本より冷遇極▲乍然　主客位置を代へて考へよ倶不戴天の仇に非ずや露や浮薄文弱に非ず▲獨佛　談判期來週より初まらん而て議案と對償とは兩國共に豫知せる如し▲英國　各新聞は過般の大罷業の原因結果の論説に忙はし殊に此罷業終熄を▲以て　一時的なりとすに一致せり國停委員會の處決頗る重大潜心熟慮爲せ▲英政　府協同獨佛政府に對し獨逸に讓歩するに吝かなる勿れと忠言す英の腹▲胡ぞ　窺き思ふに國内勞働黨跋扈し力外に匿びきるか英の不信義の遺憾也

召使お初

第百三十五回

薬法師

「お父様、お母様、只今お聞きの通りの次第、打ち捨ては置かれませぬで、すぐ様の御仁お許まで、暫時お暇を願ひまする、委細の儀は師宅の上御両方お歎びのお顔拝見するも、遠き事はあるまじう――」

助蔵はそゞろ浩る詞にて云ふ。

「お、馬鹿奴、先刻より申すが其方耳には入らぬか、確とした返答聞かぬ中一寸も外へは出されぬ、自体今の編笠、姓名を什麼と云ふ、彼奴が口上、飲み込めぬ事もあつた、さ、それを云へ」と目を瞋る。

「暫く御猶豫、迫ては御父様へお紹介申し上げる時でござりまするも、只今は内密、兎角は一體對面の仕つて……」と、助蔵は深く心に恃む處ある如く「今日の御立腹は明日のお歎び、お察身の明り起つ時もござります」

「その辯解肯かぬ、今の編笠、松平周防守様御内と云ふた、姓名は什麼とある」

「彼の方御姓名の儀申し兼ねる、仔細迫て言上の時でござりまするで、暫時の間……」

助蔵は何とも云ひ兼ねて只管困却の態を機ませるのみなりき。

「恐れながら其儀れ尋ねには、及びませぬ」と傳兵衛は臺所より進み出で、「た聲と云ひ御様子、正木姓の若旦那れ呼びなされたで、彼の方御姓名は分りありまする」

「そゝ」と助八は此方を向いて「傳兵衛どの御承知か」

「承知致す段ではござりませぬ、彼のお方こそれ旗様御舍兄正木佐十郎様、澤野様御手引きで、濱田様れ屋敷へ御仕官と聞いてござりまするが、さては若旦那様とも御懇意、親ら往來なされるを見わまする、れ嬢様は國尾様れ執持、佐十郎様は澤野様れ手引きれ嬢様れ關係、若旦那露され方、深く御詮議なされずとも、此間の消息、大概は推量も露りまする、旦那思召し、如何やうとござりまする」

商人は商人だけ、敏くも助蔵胸中の秘を洞察きたり、助八は手を拍ち。



「さては今の編笠が、噂に聞いた正木佐十郎殿ござつた喃、佐十郎殿にはお察多少の恩誼もある、當方疎略に致すべき仁では無いも、助蔵との關係、合點の行かぬ節もある、我等九死一生の大病と云ひ立て、た察心を騒がしたは佐十郎殿指金かと思はれる、時も時御門限、た築地乘り趨ね、潜びやかに出やうとするを、一も二も無くた召捕、牢舍同様の身になつたも、澤野どのれ心に深く謀ませたこともあるかも知れぬ」

「私、思心あつて正木姓れ詞に從つたではござりませぬ」と助蔵は初めて紅き舌を見せて「これには深い仔細ござります」

若江は此一言も聞き免すまじく、傳兵衛れ傍助入も膝を寄せて、助蔵の口上いかにと待つ。

傍々助蔵に詮議がある、一伍一什と篤と云へ、此方佐十郎どのに誑られて、現在妹を深い陷穽に突き入れたな」

「いゝ」と助蔵は云ひ消すやうに「陥穽へ突き入れたではござりませぬ、やがて出世の緒口となる好い事と擬らせたでござります」

「益す其意を得ぬ、牢舍同様の身となるが、什麼に由て出世の蔓ちや」と助八はすいと飼みて「さ云へ、きつと云へ」

「是非がござりませぬ、れ父様れ母様

東京電報

▲新内閣人撰決定 新内閣閣員は左の如し

總理大臣 從二位勲一等侯爵 西園寺公望
外務大臣 從四位勲二等 内田康哉
内務大臣 從四位勲三等 原敬
大藏大臣 從四位勲三等 山本達雄
陸軍大臣 正四位功三級勲一等男爵 石本新六
海軍大臣（留任）正三位勲一等男爵 齋藤實
文部大臣 正五位勲四等 長谷場純孝
司法大臣 正三位勲一等 松田正久
農商務大臣 正三位勲一等男爵 牧野伸顯
遞信大臣 正二位勲一等伯爵 林董

外務大臣は内田康哉氏に決定せる旨の確報到達せり

▲西園寺侯參内 西園寺侯は三十日午前十時參内[illegible]

▲長谷場松田入換 既報の司法大臣長谷場純孝氏、文部大臣松田正久氏は入換となり松田氏司法大臣となる

▲内閣親任式 既報の如く[illegible]三十日午後三時[illegible]

▲各大臣親任式 三十日午後三時親任式[illegible]

▲政府官吏内定 中央政府の官吏左の如く内定せりと傳ふ

内閣書記官長 南弘
法制局長官 岡野敬次郎
[illegible]
警保局長 古賀廉造

▲寺内伯專任總督 内閣にて三十日左の如く辭令ありたり
陸軍大臣兼朝鮮總督 依願免陸軍大臣 朝鮮總督如故 寺内正毅

●新首相と政友會 西園寺侯は親任式終了後政友會員を招待し盛なる披露宴を催ふし席上新内閣の施政方針を言明すべしと

●桂後の掛冠動靜 桂公の辭職後は總て新内閣への事務引繼き一段落を告げたれば輕井澤に避暑し秋冷の候歸京し濟生會、東洋協會、日露協會等の事業に盡力し又元老として時局に貢獻する處ある可く平田子は[illegible]小松原氏小村侯は各所管の事務を處理せる所勞を慰す可く夫れ〲閑地に就く筈なるが獨り大浦子は政界と寸時も絶縁する事を許さざる中央派相手に奮鬪す可し

[illegible]步兵第二十三旅團長陸軍少將[illegible]村信敬氏は後備役仰付けらる

●補缺撰擧 詔書を以て來る十月二十八日貴族院議員一名の補缺撰擧を爲すべき旨發布せられたり

雜報

●森林令の本旨 既報の如く森林令は九月一日より發布さるゝ[illegible]同令の本旨に就き當局者[illegible]くに保安林を制定して森[illegible]は古有者に對し經營方法を指定し而して許可を受[illegible]事業成効したる場合には[illegible]興し又は入會權を公認す[illegible]公用公益事業若くは移民[illegible]する必要ある時は國有林[illegible]を許し次に讓與森林上に[illegible]三者の權利は讓與條件[illegible]命ぜられたる時は消滅す[illegible]方長官に森林の使用收益[illegible]し又自己の森林に火入し[illegible]年以下の懲役又は三百圓[illegible]罰する事となれるが最後[illegible]要なる命令權を與へ同時[illegible]山岳に專用することを得

●仁川海底線如何 大連[illegible]線布設の風說に對し當局[illegible]く右に關し未だ何等の照[illegible]を以て如何なる計畫の下[illegible]るゝや不明なるも或は遞信[illegible]業の一として豫算中に編[illegible]へしに過ぎざるやも知れず

●定例長官會議 二十九日都合により休會したる定例長官會議は三十日

寺内總督は三十日午前九時より開會山縣政務總監、倉富、石塚、荒井、宇佐美の各部長官、池田遞信局長官明石總長、俵副總裁、小城技師列席政務の打合せをなし正午散會したり

●師團長邸送別 松永第二師團長は三十日午後六時より大久保大將の爲めに同官邸に送別會を開かれ陪賓として山縣政務總監明石司令官柴參謀長並に軍及師團の幹部を招待し盛んなる送別會を開く筈

●新内閣員經歷（概要）

▲首相西園寺侯 政友會の總裁にして嚢に第一次桂内閣の後を受けて内閣を組織し四十一年再び野に下りて現時に及べる事は人の知る如くにして其養嗣子八郎氏は毛利公の令弟にて桂首相の秘書官たり又實兄德大寺公は侍從長たり實弟吉左衛門氏は住友家を襲ひ今回男爵に叙せられたり嘉永二年十月の誕生なれば本年六十三歲なり

▲外相内田子 現に駐米大使にして清墺等の公使を歷任し久しく京城にありし林權助男と其出身功績を等ふせしが遂に今回外相に榮轉するに至れり熊本の人にして慶應元年八月生れ本年四十七歲夫人は大和の富豪土倉庄三郎氏の令孃にして才色双絕と云ふ

▲内相原敬氏 政友會の領袖にして第一次西園寺内閣にも内相の重任に當り今回又内務大臣となれり司法省法律學校の出身にして久しく外務に官し其後大阪毎日新聞の社長たりし事あり伊藤公の内閣に閣員たりし際遞信大臣に任ぜられ爾來岩手縣より撰出されて衆議院議員たり其手腕識見元說を用ふるの要なし安政三年二月の生れ本年五十六歲先夫人は故中井櫻州山人の愛娘なりしも既に離緣され今は最愛の夫人あり

▲藏相山本達雄氏 現に勸業銀行の總裁にして貴族院勅撰議員たり安政三年三月を以て大分縣臼杵藩に生れ慶應義塾出身にして郵船會社に從事せしが遂に日本銀行に入り岩崎男の後を受けて總裁となり卅六年任滿ちたる後久しく閑地にありしが四十二年出でゝ勸業銀行の總裁に任ぜられ爾來勸銀をして特種銀行中の重鎭たらしめ我經濟界に貢獻せし事少なからず今回藏相の重職に就きしは或は西園寺侯自ら氏を物色したるものならんと云ふ年齡今次五十六歲原内相と同年なり

▲陸相石本男 姫路藩の生れにして幼より陸軍に入り久しく佛國に留學し歸來陸軍中將に累進して三十六年陸軍次官に任じ爾來日露の大戰及戰後の陸軍整理及擴張事業に盡瘁せし事少なからず今回寺内前大臣の後を受けて陸相となれるゝ其陸軍に對する施設は殆んど前大臣の方針を踏襲すべしと傳へらる安政元年一月の生れなれば本年五十八歲なり

▲遞相林伯 舊幕臣にして外交家として現時殆んど小村、加藤氏等と並び稱せられ嚢に密使事件の京城に起りたる時外相として渡韓し伊藤統監を助けて第二協約を締結されし事あり第一次西園寺内閣には外相として日英、日佛、日露の協商に功あり伯爵に陞叙され爾來閑雲野鶴を友とし悠遊されしが今回再び西侯内閣に遞相となれり嘉永三年二月の生れにして六十二歲なり其令孃は龍澤鋕次郎氏、男爵赤松則良氏、園師民嘉氏等に嫁せられ又令弟紳六郎氏は西男爵家を嗣ぎ名門との緣故少なからず

▲農相牧野男 故大久保利通公の二男にして地方官、外交官等に歷任して才名あり第一次園侯内閣の文相として文政の振興に寄與されし事少なからず園侯内閣の更迭と共に野に下り四十二年樞密顧問官に任ぜられ現に在官中なるが薩派淵落の今日其代表者として目せらるゝ觀あり西園寺侯が今回内閣を組織するに當りて農商務遞信の如き事業界に干涉多き椅子を特に牧野男に與へて黨人に委ねざるは大に原因あるべく又以て牧野男の人物をも想像し得らるべし文久元年十月の生れ本年五十一才夫人は三島彌太郎氏の令妹なり

▲法相松田氏 は原氏と政友會の領袖にして西園寺侯とは佛國留學中の舊交あり久しく政黨にありて其名黨人間に知らざるなく其内閣に入りて文部大臣、司法大臣たりし事數回日露戰役當時には衆議院議長として擧國一致の大贊翼に盡したる事あり功を以て勳一等に叙せられ旭日大綬章を賜る佐賀の人弘化二年の生れ本年六十七年

▲文相長谷場氏 氏は現に衆議院議長なるが鹿兒島の人にして安政元年の生れ本年五十八才西南の役西鄕軍に黨して鹿鎭禁獄され放免後黨人として政治界に奔走し、或は立憲、革新黨或は六派同志會等に領袖たりしも後ち政友會に入りて遂に重要視され今回元田、大岡、尾崎、鳩山氏等の同儕中擢んでられて閣僚の人となれり閣風に富みて吟誦に足るもの少なからず銃獵は其の最も得意とする處なり

●京城郵便局諸統計 京城郵便局にては市の發展につれ月毎に事業の多忙と膨脹とを來しつゝあるが今七月中に於ける爲替貯金の受拂及び局に於ける受拂の口數並に金額を聞くに爲替の部に於ては振出口數四千〇三十一金額十七萬五千百八十三圓八十九錢拂渡口數三千六百八十一金額八萬〇九百二十七圓六十錢外國爲替は振出口數四十五金額九千百九圓八十三錢拂渡口數六十七金額二千四百六十六圓七十二錢貯金は預金口數一千八百四十五金額一萬五千三百〇二圓二十六錢拂渡口數六百十五金額一萬一千八百六十五圓九十三錢振替貯金受入口數三百〇九金額百五十一萬三千百三十六圓六十二錢拂渡口數百七十一金額十一萬二千三百三十二圓五十五錢局收入（郵便切手市話料等）七萬四千三百〇八圓五十八錢支出一萬七千九百三十六圓二十八錢なりといふ局前の窓口にて賣下ぐる郵便切手は一日平均三百圓ありといふ

●南山の砂防工事 南山の風致を保つため且つは暴雨の際など土砂流下するを以て此際總督官邸上より以西五千間の砂防工事を爲す事とし目下京畿道に於て工事計劃中なるが多分九月中旬には工事着手の運びに至るべしと

●營林廠狀況 營林廠の客月中に伐採したる材木の總數は丸角材等七千七百四十四尺〆丸太百四十一本電柱四千八百二十八本にして去る四月一日即ち會計年度の初期より同月迄の累計は一萬三千五百七十七尺〆なるが是等材木並に昨年來の流筏にて七月中新義州の貯水所に到着したる總數は三萬一千八百六十六尺〆にて賣材の賣却總高十三萬七千五百六十九圓なりと

●京城最近商況 每年七八九の三ヶ月は一年中閑散なる時期に屬せるが本年は昨年に比し人口增加の割合に購買力增加せざるは要するに一般市民の風習が贅分着實に趨きたるの爲めなるべし而して現今不景氣の聲の尙ほ止まざるが如きも大局に於ては既に[illegible]に向ひ[illegible]層をなしつゝあり尙七月上旬以來霖雨十餘日に亘りたるため各店共一時閑散の狀態にありしが下旬に入り日本人側に於ては中元贈答品（砂糖ビール麥粉洋酒等）ありしため前月に比し約三割方の增加を見たれども吳服小間物類は之れに反して約二割方の減少を示し其の他は著しき取引を見ず又鮮人側に於ては農繁期の事とて市場寂寞を極め僅かに海產物石油麻布等の小取引あるに過ぎず但し近來鮮人は一般に金回り好く爲めに四月以來日本人の與當流の土地家屋の賣戾をなすものあり殊に六月以來は甚だしきが之れ大に注目すべき現象なり又米豆は關稅改正及び内地水害の爲め未曾有の暴騰を極めたるも京城の如きは漸くにして其の需要を充せしを以て市場に著しき影響を與へざりしなり

●全國商議聯合と朝鮮商議 來十月東京に於て日本全國商業會議所聯合會を開會するに付京城日本人商業會議所にては朝鮮各總商議所に對し右聯合會に提出すべき問題を九月十日迄に回答し來るやう三十日通牒したる由なるが右提出の問題は地方の一局部に於ける利害問題を排し朝鮮全體に關する問題に限るとの事なり尙各會議所よりは會頭及び書記長出席すべしといふ

●電話加入者の增加 京城市中の電話加入者は現今二千に近く每月增加の一方にて内地人總戶數九千六百に割り當つれば五軒弱に相當し内地の大都會にも其の例を見ざるが更に本年度に於て百五十架設の豫定にて（内二十餘は架設濟）昨今器械の到着を待ち居れるが着次第直ちに架設に着手すべく而して昨日迄の申込數は約八十名なりといふ

●大邱の煙草作 煙草の產地たる大邱管内の煙草作は播種期に被害を蒙りたるにも拘はらず發育至つて良好にして現今にては平年作に比して毫も遜色なく早きものは目下元葉の收穫をなすに至るべしと

●鎭海灣の鰯漁 鎭海灣に於ける鰯漁は本年六月頃までは昨年と大差なかりしも其後二回の暴風雨のため魚群遠く走り爲めに近來非常の不漁なりされど先き三ヶ月間の漁期をなせるを以て漁夫は何れも今後を樂しみとせるも到底昨年には及ばざるべしと云ふ

●雲山礦業者の盜伐嫌疑 豫て雲山間より注目されたる雲山金礦會業者が附近山林の盜伐の嫌疑事件に付其起因を聞くに該金礦會業者が材採特許を得たる[illegible]楚山郡の山林は伐木搬出頗る不便にして森林鐵道の布設を要し且つ一萬二萬五千圓の上納金を支出するは頗る不利なればとて金礦附近の山林を濫伐したるため附近住民の反抗を招き繼なくも右伐採地區は特許範圍外なる事判明し事實漸く重大に赴き目下檢事並に警官の手にて事實の眞相を調査中なりと聞ふ

●群山と繩叺業 ◎當港に來集する米穀類は其包裝用として殆んど全部繩叺を使用するを以て每年其輸入額も多く昨四十三年の如きは十三萬三千〇三十六圓の巨額に達して居る當地方の如き大米產地に繩叺の輸入は一見如何にも不思議なれども從來當地方產の業は品質劣惡なると鮮農民の通弊として乾燥不充分の爲め賣買脫弱にして到底繩叺の原料として使用するに適せないうれば不得止内地より輸入して居る譯である◎處が近來農事の改良漸次行はれて、案外も從來に比し餘程品質佳良のものを產するに至った斯る折柄恰もよし過般農工商部の中村農務課長は當地方視察の際に當港の有志者に向ひ熱心に繩叺の製造を慫慂し協合によりては保助金をも下附せらるべしとの意を仄めかされた是に於てか當港の向井菊太郎氏は蹶然として立ち有力なる賀島清岩田宇之助及田中兩市兩氏の後援により盛に叺の製造業を經營することゝなった其計畫によれば先づ岡崎式繩叺製造機臺（一臺製造繩一日の製造力三十貫叺機械同上五十枚）及手織器二百五十臺を（製造力不明）購入し之れを鮮農民に無償貸付を爲し繩叺製造機の方には内地より熟練なる職工を聘して其製造に從事せしめ側ら鮮農民に對して手織器の使用方法を教授し大々繩叺の製造を獎勵すと云へば事創の際多少の困難に遭遇するとは免れざるべきも要するに撓まず屈せず熱心と努力とを以てこれに從事せば將來有望の事業なる丈其成功は敢て疑を容れない同時に又一方に於ては秋收冬藏の外何等副業を爲すの途を知らざる鮮農民に對し適當なる副業を授けて彼等に至大の便益を與へるは地方の經濟上より見るも實に喜ぶべきことであるそれで此業の開始は當港に於ても一般人士間に多大の囑望を以て大に歡迎せられて居る因て向井氏は過般既に其筋に向ひ補助金下附の請願書を提出したとのことである（木生特信）

●縣洞の近況 鎭南浦縣洞の新市街地たる三等地は今や新築家百二十餘戶にして何れも店舖を構へてるも一二等地に至りては舊來家屋僅かに數戶にして其着落だしきは未だ總均工事にすら着手せざるものあり殆んど市街の體裁を備へざる者は規定により爲一九月中に工事に着手せざれば自然貸下を取消さるゝことゝなるべし然して之等未着手のものは多く東京[illegible]が許可を得居り貸等の中には初めより自から家屋を新築するの計畫にあらずして貸下許可を得たる後は其權利を他に讓り渡し以て一時の奇利を占めんとするもの亦少なからず現に東京實業會社に對し其權利を讓與せんと申込み當頻々あるも會社は容易にこれを買收せざる有樣なるを以て一二等地の建築は到底迅速を期し難し云々と同地よりの歸客は語れり

●昌德宮の晩餐會 昌德宮にては三十日午後七時より山縣政務總監夫人及令嬢令息並に朝鮮貴族同夫人三十名を召され晩餐會を催され餘興には天勝の奇なり。

[illegible]ありたり

●新任[illegible]事務打合せ 京畿道にては去る二十七日より管内[illegible]會議を開きつゝありしが二十九日を以て終了し三十日は新任[illegible]のみを召集し事務上の打合せを爲したり

●渡邊事務官の辭任 總督府事務官水產課詰渡邊金太郎氏は病氣に付今般辭任の申出をなしたり

叙任及人事

△小川[illegible]（春川憲兵隊憲兵中尉）廿九日入京龍尾へ
△前田昇（[illegible]州憲兵隊長）同
△大伴誠吉（[illegible]山技師）同
△深川勝一（[illegible]川造船所員）巴城館
△宮原忠正（總督府農事技術館）廿九日出發水原へ
△藤川金次（[illegible]山業）同釜山へ
△小鹿島[illegible]（朝鮮農工銀行支配人）同城

▲京城手形交換高▼

月日	金高	枚數
八月三十一日	三五二、三三八、九三〇	八〇

▲治外法權▼ 待遠ふて待遠ふでならぬ新内閣々員の顏觸れが判つたソコで本紙は取敢ず號外を出して讀者に報導した、サテ天下は誰り待ちだで▲別項號外再錄中意外なるは山本達雄の藏相であるが、併し同人とて曾て日銀總裁をも勤めた男、ど實業家との連鎖には頗る適當な人物故、ソコを見込んで西園寺が取込んだのであらう▲林董の遞相、之れも一寸意外の機だが、彼れは嘗々郵便出身者で、曾ては横濱郵便局長をも勤めた經驗がある程故遞信の椅子に据つたとて强ち不思議ではなからう▲サテ閣僚れも揃ひ親任式も濟んで見ると一時問題であつた、寺内の朝鮮總督留任說は揚ねた譯で、賤るは朝鮮總督に就ての擔退のみ▲東電は今以て寺内の總督留任如何を不明と報じて居る、ソコで記者考ふるに寺内さへ主義の違つた内閣の下に留任するは不愉快であらう、況んや中央政界より全然遠かるのは不利益と感ずるであらう、併し正直派の彼れ故我繼續者のある迄はと云つて辛抱をするであらう▲三年飛ばず鳴かざりし元の統監府總務長官鶴原定吉が拓殖局總裁になるのは本當の樣だ、片や寺内、片や鶴原、コウなつたら見ものだ▲今や内地人も鮮人も齊しく内閣の更迭を噂んでる、而して惡ふ之れ桂の云ふ人心の一新なるもの、總督の留任は記者の希望なるも人心一新の爲には不可▲誰か有志の發起に成る故伊藤公の銅像は近々除幕さるゝソウだ、サテ故公と最も緣故深き當地の分はドウなつたのかイツまでも公の銅像建設を首唱とは變だね▲九月十三日は故曾禰子の一週忌[illegible]人關係者は同子追悼會を催ふして可

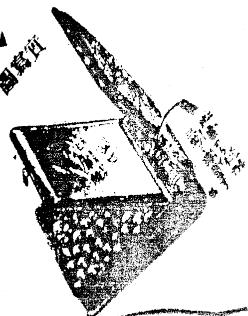
講談

明石志賀之助（五）

初めは勇氣凛々として居た浪華の俠士二度が三度と此の手を喰ふと、段々人數が減るばかり、乃公が行かずともナニ大丈夫。三十や四十の東奴を倒すのに、そんなに手は要らねえと氣を兇して次第に出て來なくなる。固より先方の氣の緩んだ所を、反對に此方から先きを打たうといふ市郎兵衛、突然に油の小路を出立なし、眞先きに八人蜻蛉の四手駕籠、白縮緬へ「日下開山明石志賀之助」と墨川染に染め現はしたる幟を押立て、駕籠の垂れは下りてる、垂れの間から緋縮緬の衣類の袖が出て居るのは、飽迄明石と見せたる夢の市郎兵衛當夜に山瀬組三十五人、唐犬權兵衛、釣鐘彌左衛門、金神長五郎、夜の治兵衛、唐犬重右衛門、市郎兵衛の弟放駒四郎兵衛、鶴の善三郎、江田の仁兵衛を始めとして、屈竟の町奴駕籠の棒鼻を揃へ「エイヤ／＼」と逢坂山を蹈になし、大津打出ヶ濱を望んで飛ぶが如くに乘込み來る、ソラ來たぞ、明石を始め東奴が揃つて來たぞ、一度にドツと立ち騷ぐ、豫て覺悟の朝比奈藤兵衛、十分に支度をなして待ち構へて居る所へ宙を飛ぶが如くに來る八人蜻蛉の四手駕籠、大手を廣げて突立ち上り「此の駕籠待つた」と棒鼻を押へてグイ／＼と突き戻し「此の駕籠の内は噂に高き力士の明石と見た目が僻目か浪華の俠士朝比奈藤兵衛、氣の毒ながら仁王の化、汝が命は貰つた」と云ふ間遲しと駕籠の中よりヒラツと飛び出たのは身の丈八尺二寸、天下の力士明石志賀之助と思きや、[illegible]の雪を欺くばかり[illegible]紺縮緬の上三尺、白羽二重に南無阿彌陀佛の六文字散し[illegible]の上に襷を掛、手拭を數いて向ふ鉢巻、相模國の住人九郎三郎秋廣の一尺九寸二分の長脇差を左に提げ、白の足袋跣、裾を取て高端折り、ヌツクと突立「喧ましいやい、浪華育ちの鬼共、東奴の夢の市郎兵衛とは乃公のことだ義弟明石が大内の相撲に勝を得た上は、モウ外に用は無ねえ、江戸へ戻て高枕、跡に殘つた市郎兵衛、何奴此奴の對手は嫌はねえ成りは手柄に片ツ端から束になつて來い」と突ッ立ち直つた勢ひは、姿こそ小さいが、淺山一傳流の極意に渡り、小野派一刀流の秘訣秘傳、關口流の柔術の極意に渡つた市郎兵衛、朝比奈藤兵衛は眞貫流の達人力は三十二人に對し、浪華隨一の俠者。「洒落臭え白痴のチビ奴、浪華の俠士朝比奈藤兵衛、汝が命は大津の露、誤託を吐さず今日なり明日なり、勝手に唱へて藤兵衛の、彌陀の利劍に往生しろ」ピクとも怯まぬ市郎兵衛。

いつも仁丹持つが肝心

Whenever, however, & wherever you may be,
you'd surely enjoy excellent health in taking Jintan as a task.
Jintan is a wonderful tonic and the best mouth refresher.



●益々大好評の此の鏡付容器は仁丹の五十錢包に添付す



▼薬品精撰は仁丹の生命
▼顕著は仁丹の特長



●炎熱烈しき今日此頃は片時も仁丹を離し給ふな仁丹飲む人徳な人



主効

●時候偏り	●頭痛目眩	●吐き下し
●食傷水傷	●舟車の暈	●酒煙味増
●食慾不進	●悪酔宿酔	●音声美妙
●くひすぎ	●胸腹痛み	●悪疫豫防

いつも

●食事する時 ●舟車に乗る時
●水泳避暑の時 ●疲労喉渇の時
●納涼散歩の時・●酒煙草の前後

キット〱仁丹を召上れ！何共云へぬよい気持

▼三輪井上両博士の方剤に依り諸薬を配合せる仁丹は暑熱を消し、口中を清し、元氣を盛にし、食物を美味くし酒煙草の味を増し、吐瀉悪疫を豫防し、立處に不時の急患を救ふ

サレバ〱……日中外出の時

特に欠かさず仁丹を御携帯あれ

朝鮮代理店 京城 新井薬房

京城花柳評判記（十）

（園取）だいぶ話が酒に落ちた樣ですから、今度は陽氣な處を一條お願ひ致し升。

（半可通）まづ**花月**から辨じます、藝者の數の多いんでは、東京の春本林家、乃至大阪の富田屋あたりを除いたら此家かも知れやせん、**現在員三十余名**、毎晩人員點呼をやつて、消燈喇叭で電氣を消して、オット不法監禁は避暑の擬句でげした……現に角れびたいしくめぞつとを締めたものでげすが、藝がすば抜けて居る妓と云ふは見當りませんな、古句にある通り「藝が身を助けるような不仕合」現代では藝者衆が藝が身を助ける樣じや未だ相でげすから、こゝは一番名妓揃ひと賞めて置くのが當世でげしよう。さてその次は**揃翠**でげすか、別嬪揃ひと申上げたいが、返つて氣を悪くなさるから見合せましよう、何分今の處で**現在員十三名**、旅行見江戸ッ子の一團體を成した樣で、何分今の京も今年限りとあつては昇更物の哀れが身に染みますかいな、染の踊はいさゝか江戸ッ子の溜飲を下げるに足りますが、もう少しベンくの勉強が肝要でげすな、其次へ廻しましよう。

（茶屋坊）花月の小達磨に○町遊の○○とやら言ふた藝妓が逃げ込んで、關元から御拧迦の正妻を顧る非常に憤慨するのと、若派の秀香の内緣の亭主由さんが十二時過ぎて座敷からでも歸ろうものなら、たよさを取つて雛の雨を降らすのとは共に似て非なるもの。

（焰魔大王）**小達磨**の罪科淺しとせず依而**針の山**へ追放申付く、**秀香**は情に於て哀れむ可きものあり依而**積河原の子守**を申付く。

（青鬼）難有く受け致せ、兩人とも立ちませエ。

（大坂者）**花家**とこから、……が披露目をしやはりました、南地の富田屋に小峰といふて十三年余りも居たのや、けれど女だてら**競馬**と**賭博**が好きでな御客勞さんに京城まで鼓換わや、うやけれど本場を踏んで居やはるだけに、れ坐敷ははんすっきりしてまつす。

（駄酒落）賭博が好きだからチョウと名乘つたんだろう。

（園取）然て市中の評判もあまりに水くなりますから、此邊で島渡御中止を願ひまして、寂然寛容でもあり、店すがゝきに風薫る新町の黄昏時もこれからですから、一つ風を換ねて**廓の素見**と**出掛**ましよう、皆さんれ仕度が出來ましたらこれからぼつ〳〵れ徒歩で參りましよう。

▲明日より新町評判記▼

●奉納花火大會●洋樂隊の演奏

奉納仕掛花火大會を本社は豫報の如く**南山公園皇太神宮神苑**前に於て**開催**したり附近の山々谷々之れが觀覽者を以て溜たされたり其の數殆ど萬を算するを知らず使妓臺上燦爛として仕掛煙火數々の花崗を渉ふ所傍しては雜街の登光堂の如く京日社主催の提灯行列の蜿蜒として長蛇の大漂を渉るが如きを見、仰いで銀星金光節の如く雨の如く亂れ降る萩に胸に紅の色樣々に美しきを觀る、夫れ既に天下の盛觀たらしを尖は浮るに更に**李王家洋樂隊の樂手二十五名**より成る洋樂の**演奏**あり开が神々しき樂の音の滑り樂き響は**皇靈を祭**りて**奉るに此上**なく適はしく舞ひ群るゝ人の心も和ぎて瑞翠南山の天に掲鬼たり小暗く人に充たされたる丘陵を辿る共所にこう群集なし心易く見物せんと躍れば頭上の松樹風なきに搖るアナヤと見れば枝、人あり仕掛煙火の**朝顔**は**一箇所八十間**宛**五ヶ所**に設置られ點火さるゝや百花一時に亂れ開き**火輪車**は中空に火焰を濺らして壯快なりき其の仕掛花火點火さるゝや南山爲めに紅は**實に火と人とを以て埋め**られたり各會社商店苦心の意匠に成る**仕掛花火中の秀逸**は三井物產の**三井**縁居商會の**オリイ**、三巴商會の**三巴正宗**、三越呉服店の**丸越**、東光社の**天鵞美人**、辻屋の**つぢや**、東西煙草の**月に兎**、**花月**、**玉足袋**等なりし**打揚花火の數十發**は常に喝采を以て迎へられ九時半音樂隊の**君が代の吹奏**終りて**散會**したり

●記念の夜の市中

▲**京日社**の主催**提灯行列** 參加人員約五萬なりしと號さる紅裙隊の參加もあり假裝も多く近くても美しく遠く望みても又なく美しかりし

▲**本町通り一帶** 各商店とも殆んど悉く休業して店頭には定紋打つたる幔幕を張り繞らし飾燈を利用して商品其他を以て樣々の意匠に裝飾を凝したる中にも平田文房具商店の飾りは面白く見られたり

▲**明治町** 本町通り程花々敷飾りもなかりしが共樂館は一方ならざりし

▲**長谷川町** 既報の如く花々しく飾り立てたる見物人の塔を築きたり

▲**南大門通り鍾路** 日韓瓦斯電氣の花電車の運轉同社建物のイルミネーション並に提灯行列等ありて稀に見るの賑なりき

▲**新町遊廓** 京日社主催の提灯行列中の某々團體は新町入口に差し蒐るや列を放れてドヤ〳〵と流れ込み京城、第一、滿月の各樓に登樓したるもあり素見ゾメクもありて非常の賑なりき

▲**鮮人部落** 夜に入ると共に家を擧げて市中見物や行列見物や花火見物に出でたるもの多かりし爲め極めて物靜なりし泰平の瑞祥と嬉しかりし

●千代子はしけ子

▽大樹屋秀島が事

遊廓第二樓藝妓にして他人の誘拐を受け遂に年齢不足の爲め假名若は戸籍を……

許欺し鑑札を受け娼妓

に從事する者屢々其の筋に檢擧されつゝあり殊に新町遊廓大樹屋に於ては今日迄數名を出し**許可を取消**されて後の女は**下女代理**として金錢貸借の爲め娼妓同樣自由拘束の下に使役しつゝありと聞く今又本社が探知する處に因れば同樓に本年五月十九日より前借金四百圓三年四ヶ月の契約にて抱へられたる東京下谷區入谷町三百九十六番地某妹鈴田千代(二二)は秀島と名乘り苦界に身を入れ最初の頃より新町病院に入院治療しつゝあるが右の女は本名澤田しげ子(二二)にして或る惡漢より誘拐せられ大樹屋に抱へられし事**東京警視廳の探知**する處となり目下犯人捜查中にて當地其の筋にては澤田しげ子即ち秀島事鈴田千代に付取調照會中の由なるが抱主も注意所用なり

●新町遊廓名妓饋込郁々逸

○第一樓 潤香 市松

きよや明日かと待つ身も知らず餘所で啼をする憎さ

評「今度來たら非道い目に逢はしてやりなさい

○井門支店 潮子

歸す心が異の實留めたきこゝろれ無情く見せて

評「世間の手前や世の儀理も可愛男の身を案じ木の不爲にならぬ樣、てな事を云つて陰では舌を出し

○玉家 琴代

樂しかつたは昔のことよ今は苦勢が樂みでしよう

評「うの苦勢が身を攻める

○滿壽樓 菊代

降へ囘つちや嘘もきくよ

評「餘所で浮氣をする樣なアノ人憐れ彼れ虫の氣を揉むではないよ氣安く思つていなさい

●危險制止の危險

京城中部瑞隣坊白木屋后洞居住洪命海息子老兒(一二)中部堅坪坊典洞居住韓興根息子光得(一二)の二名は二十八日午後八時頃鍾路通り電氣會社に於て併合一週記念祝として該會社の周圍に電氣を以て裝飾し火色種々變色し壯觀なりし事とて夕刻より見物人山の如く集り交通の餘地なき位にて右二名の子供は門の横側に置きありし電設用梯子に昇り該裝飾を見物し居たるを警官は危險と認め制せん爲め下れと叱りしに二名の子供は……

……し一時氣絶せしが應急手當を施し生命は取り止めたりと

●牛肉と情死

二十九日午前十一時頃南大門外濟衆病院に六十三歳位の老女二三日前牛肉を食ひ腹痛に堪へねからとて診察を乞ひたるより醫師は患者の手を握り診斷に從事せんとせしに直ちに死亡したりとて南部署より急報に接し檢視したるが患者の住所氏名も不明なりと

●小笠原服罪

元東拓雇員小笠原信雄の公金費消罪は嚴さに懲役三年に言渡されしが一時彼れは不服の感ありし由なるも檢事は五年の求刑なりし事とて服罪したりと

●王家の天勝觀覽

李王殿下及同妃殿下には奇術師天勝の妙技を聞召され三十日午後六時より天勝を召し昌德宮に於て各貴族と共に觀覽遊ばさるゝ由

●物置場は人置場

旭町一丁目豆腐商中瀬喜次方雇人三重縣人大北豊吉(二〇)は三十日午前一時半頃旭町一丁目二百二十八番戸秋山源太郎方物置場に故なく潜伏して南部署に告發され拘留三日に即決

●龍山の腸窒扶斯 本籍福岡縣遠賀郡川端村字尾倉當時龍山元町四丁目四十九番戸杉山甚三郎方同居鮫島はま(二五)は此程腸窒扶斯に罹り京城順化院へ收容せらる

●電車に觸れて負傷 二十九日午後三時頃南大門通り三丁目に於て擦軍金五福(二〇)は鍾路行電車に觸れ顔部を負傷したり

●江頭醫院の移轉 同院にては先頃より明治町三丁目東拓會社南側に於て新築中の處今落成したるに付本日より移轉診療に從事する由

▲昔し結んだ嬉しい夢を思ひ出しては夢に見る▲思ひだせば丁度去年の今月の十五日でしたのよ、南山の美人茶屋から呼出しをかけて、二次會が白水の其れ流れが、待合ひの春日、二年越しの戀が叶ふて、嬉しい夢を結んだのも、つかの間其の夜餘り酒を過したので家へかへつたのも夢我夢中で、傳票と、春日の勘定書を取違ひてれ根塲さんに渡した爲めどう〳〵かくし階ひがばれて翌日からは外出止め其の上外から座敷がかゝつても客の名を聞かなければ出さないと云ふ始末に彼の人との情交もそれ限りたつた一度つ切りできした……ませ色鏡の現のことはどうしても忘れられないは、要今だに彼の人の事を夢に見てよ」と杜業の時松組さんのれ安うないた惚け男の名は御本人の願みにより暫はぬが花の郡育ち色白の好男子とのみ申上置き申す▲劃の浴衣が人目について世間でとやかく夕涼み▲情事の若龍七入日前の夕暮れ對いて好かれた仲の若且と對の浴衣に涼風を受けて手に手を取つて水標橋へそゝろ歩き▲れ互に煽姻氣取て出たからは暮れて氣兼ねも夏の川浮かと口説も夕涼ぞ▲れ坐敷でうたう唄の文句を其の儘はては人目を構はず男の肩へ寄り添ふて『旦那要し鍛そばよりあなたのうばが一番よくつてよ』とは惜ても〳〵暑い事かな▲泥に染まぬが嬉し濁り江に咲く白蓮花▲藝者〳〵つてそふ一と口に馬鹿にしたものではありませんよ古い文句ですが泥の中にも蓮の花が咲きますからねなんぼ京城の藝者でもう〳〵早分りのする連中ばかりではありません早い話しが内心までは賣りませんからね」とは例の政子組さんを見て御覧は賣つても井門の鶴吉裙が涼臺での怪氣燄さすがはよく殿を吹き飛ばしただけかつて一寸毛色の變つた女に御坐候▲一ちは顏よど不見轉藝者は二上り三さがり▲色が白ふて鼻筋が通つて目元の涼しいとだけ聞けばどんな美人かと思はるれど逢ふて見れば左程にもない掏翠のれ染組藝は現に角さすが智惠者と評判をとりし丈けあつて客の鼻毛の數がは頗る妙を得今迄によんだ鼻毛の數が約り八千八百八千八百本にも及ぶとか▲去る程に此の妓近來の陽氣の加減か、れ出入の小間物屋の商賣振りが馬鹿に丸氣に召したとかで早速結婚と決め込みて相方のぼり詰めて捨てられば飛行機で驅け落もしかねまじき樣子に右女助の二の舞をしなければよいがと仲居部屋での噂とり〳〵（影法師）

●演藝だより

▲壽座 うかれ節芝居片岡鶴之助の一行は三十一日乘込み初日を出す筈なるが此の度は新に内地より上り五名を差加ね大勉強にて開演すべしと特等を五十錢とし四十錢三十錢二十錢の四等にして藝題は『吾妻春駒觀音小僧丹治』

▲浪花館 非常の好景氣にて毎夜大入札止の桃中軒雲柳一行三十一日の讀物はたの如くなりと云ふ

小林平八郎忠州公御賣試合(柳若)一休悟道鑑(燕太郎)左甚五郎(入千代)寛京警視廳邦亂府年立志、伊藤公ハルビンの夢(花園第)實録傳助(桃中軒雲柳)